



【人生の家が揺るがず、倒れない生き方】

聖書:マタイの福音書7章24-29節/マタイの福音書7章24節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev.Jung Nam-Chul)

愛する信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお元気でしたか。思わぬコロナウイルスの影響が続いている中、一週間もみなさん、お変わりなかったでしょうか。先週水曜日には、我らの教会の中3年生の雅和君(江南)・信雅ちゃん(小牧南)お二人の高校入試、合格しました。そして、木曜日には、小6年生たちの卒業式もありました。御名ちゃん、真衣ちゃん、優輝君、ソラちゃん、大介君！心からおめでとうございます！

世界が今コロナウイルスで苦しんでいる中、神様が今このような苦難の時を許して下さる奥義と意味が何であるか、続いて聖書を通して学んでいます。災難の時、嵐の真夜中を通る時にキリストを信じている我らがどんな信仰の姿勢を取り、どう生きるべきなのかを学ばされています。

今日は、人生の中、思わぬ大雨が降って、洪水が押し寄せ、強の風が吹いて来て、人生の家に打ちつけられた時にどうすべきなのか、一緒に学んで行きたいと思えます。まさに今のコロナウイルスの影響により、多くの人の人生と日常の生活が揺れ動かされている今の時期、どうすれば、激しく押し寄せって我らの人生のすべてを倒れさせようとする苦難の中にあっても、しっかり立って守られ、揺るがない賢い人生、わが家庭、主の教会となれるのか神の御言葉に立ち返って共に学びまた聖書の御言葉通り従い実践していくみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます！

今日の本文は有名な山上の教えの結論のところです。そういうわけで本文の始めで**24節**を見ますと、“だから”で始まっています。これは結論だという意味です。つまり、その結論というのは、イエス様は弟子たちに真の弟子になるため、これからも揺るがない人生の家を建てて行くために、今も生きておられる神の恵みと祝福にあずかり、どうすれば幸いな人生を歩むことが出来るのかについてその結論を教えて下さっています。

結局のところ、人によく見えないところかも知れませんが、その勝敗は、何よりも一人一人の人生を支えている人生の基礎と土台にかかっている、その人生の基礎、その土台がもっとも大切であることをイエス様は強調して教えて下さったのです。

みなさんは、アメリカの中で、家賃が一番高い都市はどこなのかご存じでしょうか。今年1月の統計によりますと、ニューヨークなのです。特にニューヨークの中でも一番高いところが、マンハッタンだそうです。(2020年1月全国家賃レポートによると、全米の平均家賃は1,463ドル(約16.3万円)ですが、ニューヨークの中でも、マンハッタンの家賃は一月あたり平均4,210ドル(約46.9万円)で、全米で一番高いようです。2位がサンフランシスコ(3,700ドル)で、3位はボストン(3,462ドル)です。)

特にニューヨークの中でも、世界で高層ビルが多い代表的なところとしてニューヨークのマンハッタンはもっとも知られている有名なところでしょう。ラジオ・シティビルをはじめクライスラービルやテロを受けていてワールドトレードセンターやエンパイア・ステートビルなどの超高層ビルがここに群がっています。

マンハッタンは一つの島で、小さな地域なのに、どうして、このような巨大な高層ビルが多く立てあげられていると思いますか。一番の大切な理由はその地盤(じばん)が巨大な岩石(がんせき)であり、その上に作られた地層(ちそう)だからであることはよく知られている事実です。もっとも丈夫な建物を、それに高く建てようとするほど、実は、人の目には見えないですが、その基礎、基盤となる土台がどうであるかそれが、どれほど大切なかが分かります。

イエス様は今日の本文の御言葉をとおしてこの基礎と土台の大切さについて強調するために二人が建てた家のたとえ話をされています。一つの家は砂の上に建てられ、もう一つは岩の上に建てられました。砂の上に家を建てた人をイエス様は愚かな人だと言われ、岩の上に家を建てた人を賢い人だと言われました。

<1. 岩の上に建てられ揺るがない家の基礎は一体何でしょうか。:人生の設計図聖書通り行う事>

みなさん、早速、結論的に、今日一番大切な質問はこれです。そしたら、巨大な岩の上建てられ、揺るがない、倒れない賢い人生の家のその基礎はいったい何でしょうか。

24節を共に読んで見ましょう。

「だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができません。」

この箇所でも強調されている動詞二つは、イエス様の御言葉を“聞いて行なう”ということです。そして、この二つの単語の中でもっとも強調されていることが御言葉を聞いて御言葉通り行なうこと、御言葉通りに実践する、生きることなのです。いくら神様が我らの人生を愛され、完全なる神の御言葉、つまり、我らの人生を救い、変え、回復させ、幸いな人生に導く人生の設計図を与えて下さっても、それを聞き流し、神からの人生の設計図通りに徹底的に従わなければ、岩の上にしっかり建てられて人生の家を建てている状態ではない事を教えて下さっています。

聖書の御言葉をいくらたくさん聞くのか、個人的に、神学校や教会でいくらたくさん読んだり、学んだりしても、自分の人生や生活、自分の家庭が変わってない理由、神を信じ、キリストを信じると言いながらも、すぐ思わぬ試練にあうと、神の信じてない

者たちとの反応と姿勢が変わらず、すぐ恐れ、すぐ不安になり、人生の揺れが激しく、すぐ倒れそうになっている理由は、神の御言葉聖書通りに徹底的に従い、真剣に実践してないためであまり生きておられる神の力と助けを体験してないのだと教えて下さっているわけでありませぬ。

神様が我らに完成された神の御言葉、この聖書を与えて下さったのは、思わぬ人生の試練と苦難の中であっても、神の御言葉を通して、日々実際生きておられる神様との生きた交わりと御力を体験しつつ、揺るがない美しい人生の家を正しく建てる事が出来るようにするためであります。

その意味として、神の御言葉、聖書は、人生の家を素晴らしく建てていくために、神様から直接我らに与えられた人生の設計図だと信じます。だれでも、どんな人生であっても、この神様が与えて下さった設計図なる御言葉通り、徹底的に建てて行けば、必ず、救われ、回復され、守られ、恵まれ、さらに素晴らしく変わっていくように、導いて下さるものであります。

テモテへの手紙第二3章15-17節で「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです。16聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと強制と義の訓練とのために有益です。17それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。」

ですから、御言葉通り真剣に、優先に、大切に従い、生きる事が、まるで、家を建てる者が、設計図にしっかり従って、家を施工(しこう)するだと言えるでしょう。

実際、神を愛し、神の御言葉を絶対的に信頼して、従っているうちに、聖書に約束されている神の祝福を受けて歩んでいる人生の家もいれば、ところが、頭では聖書が神の御言葉であることを知りながらも、まったく日々人生の家を建てていく中で生かせず、適当で、よく妥協しながら、信仰の形だけ取っているものは揺れやすく、激しく倒れやすくなると教えて下さっています。

今の大変な時代を通りながら、我らはみんな神の御前で、今まで、適当な御言葉の生活、適当な信仰生活、適当な祈りの生活、当たり前かのようにマンネリ化になって来た礼拝と教会での自分勝てな信仰生活過ごして来たことはないのか自分の人生の土台を点検すべき時ではありませんか。

愛する信仰の家族のみなさん！いくら素晴らしく完璧な設計図を手に入れ、あったとしても、家を建てようとする人がその設計図通り施工(しこう)せずに、その通りに家を建て上げていかなければまったく設計図がある意味がないことではないでしょうか。

いくら高価な設計図を手に入れたとしても、家を建てる人が結局設計図をまったく無視して、自分勝手に、家を建てようとするれば、すぐは問題がなさそうに見えても、後で大変な目におわれてしまうことになるのは当然な結果ではないでしょうか。不実工事や手抜き工事によって建物に酷い裂け目、ひび割れが出来たり、建物が偏ってしまったり、ついに倒れたりするさまざまな事故や被害が今日ニュースを通して時々起こっているのではないのでしょうか。

*ヤコブの手紙1:22-23、25節「22また、みことばを執行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であっては いけません。23みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。25ところが、完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」

見えない、わずかなことのように見えるかも知れませんが、神の御言葉通りに徹底的に従って日々生きようとする事が、自分の人生の家を堅固に、丈夫に建てていける、真の巨大な岩のような人生の基礎と土台となると教えて下さっています。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！もしかして、思わぬコロナウイルスのよる今の時がある方々には、大切な人生の家を激しく揺れ動かされ、倒れそうに、洪水のように沈まれ、大切なものが失われそうな時を通過している方々はいませんか。昨日も、今日も一日中神の御言葉に真剣に従い、自分を変えて行こうとしなければ、残念ながら、今まで、辛く経験して来ている激しい人生の揺れと波、何かあったら、すぐ倒れそうな恐れと不安な状態は決して変わることはないと思じます。

アルベルト・アインシュタイン博士は、ドイツで生まれ、「20世紀における物理学史上の2大革命」と言われる相対性理論で1920年、ノーベル物理学賞受賞した、彼は実際にはイスラエルのユダヤ人でありました。

彼が残した有名な言葉の中で、このような言葉あります！「昨日と全く変わらず、同じ今日の一日を生きながらも、今日一日中違う結果を期待するのは、精神病の初期症状である。」

今のコロナウイルスの思わぬ混乱の今年を過ごしながらか、20年度の教会の目指す標題を祈りつつ、「新たにリセットして行く神の家族」だと決めました。あと総会の資料を参考にして下さい。パソコンはウイルスに感染され、通常通りの作動(さどう)できず、よくエラーが発生している時、一番よく薦める方法がもう一度、パソコンを、機械をリセットする、初期化することでありませぬ。

今のこの艱難の時、試練の時を通りながら、もう一度、我らの人生の土台を正直に神の前で、点検すべき時ではないかと思われませぬ。今まで、適当な御言葉の生活、適当な信仰生活、適当な祈りの生活、当たり前かのようにマンネリ化になって来た礼拝と教会での信仰生活などであったなら、もう一度、この時期に、しっかり神に立ち返り、改めて神の御言葉中心に徹底的に立ち返り、従うべき時ではないでしょうか。神の御言葉中心にしっかり自分自身の価値観、生き方も、我らの家庭をも新たにさせることに決心し、行うことにより、却って生きておられる神の力を、助けと支えを、恵みを日々体験しながら、建てられていく賢

い人生の建築家たちとなりますように救い主なる主イエスキリストの御名によってお祈り致します。
「あなたの神、主に立ち返り、きょう、私があなたに命じるとおりにあなたも、あなたの子どもたちも、心を
尽くし、精神を尽くして御声に聞き従うなら、あなたの神、主は、あなたの繁栄を元どおりにし、あなたを
あわれむ。」(申命記30章2-3節)



<2. 砂の上の家と岩の上の家の共通点>

砂の上に家を建てた人も、岩の上に建てた人も、みんな共通家を建てる必要を認識していたことです。

家というのは人にとって、あったら良いし、なければ別にいらぬ贅沢なものではなく生きるための必需品です。広い家か、狭い家か関係なく、人が生きるために、家族が日々生活をしていくためには必ず、なければならないものです。

イエス様はここで神の御言葉通りに、真剣に従う信仰の生活をなぜ家を建てる過程に例えたのでしょうか。それは、例外なく、全ての人の人生の家の建てて行く人生の中で、もっとも大切なことだからではありませんか。神の御言葉を聞き従うことは、贅沢なことでもなく、時間やスケジュール的な余裕がある時、聖書を読んだり、教会に来て礼拝したり趣味ぐらいの適当にしても良いようなことではない、人生の中でとても大切に、欠かせない事を通して教えて下さっていたわけでありませぬ。

もう一つの共通点は、各自二人によって二つの家がそれぞれ建てられて、ついに完成されます。

イエス様は二つの種類の人がいることを今日の本文では教えて下さっています。賢い人と愚かな人が完成した二つの家は表では家の形やスタイルが似たように見えます。少なくとも外形的にはあんまり差がなかったように推測ができます。外見的な家の広さや見えるデザインもそんなに変わりなく、似たかも知れません。このようにざっと見ると愚かな人が建てた家も、賢い人が建てた家も両方とも表ではあんまり差がなく、似たように見えます。むしろ、ある面では、今日には、砂の上に建てた人がもっと認められるかも知れません。

岩の上に基礎を整って、家を建てた人よりも、砂の上に家を建てたものはかなり時間を節約し、ささっと家を建てていたので、もっと短い時間に、たやすく家を建てたわけですから、その分かかったコストも安く、人手も少なくかかり、むしろ、家の外見の方にもっと余裕を持って家を建てられたとすれば、もっと立派なデザインで建てられた可能性が高いのではないのでしょうか。

今日、過程(プロセス)よりも、人の社会もすぐ見える結果と成果を求め、重要化する傾向があります。

人の心よりも、うわべで、人のすべてをすぐ評価しようとする傾向があるでしょう。うわべの姿だけで、信仰というものも判断してしまいがちです。その人の一週間の生き方がどうであっても、主日教会で色々な奉仕に頑張ったり、教会で、牧師や役員、執事、牧者みたいな身分があれば、素晴らしい信仰の人だと、聖書通りにどう生きているかより、聖書の知識が多ければ、とても優れた信仰者かのように我らは錯覚し間違ってしまう時があります。ですから、私たちはそれに他の人も、そして、自分自身に対しても注意深く、気をつけなければなりません。

今日の本文にはイエス様がその面について指摘してくださっているのです。愚かな人と賢い人、この二人の家は外見上には何の差も見えなかったことを強調されています。

いくら、表では似て、外見上では同じ形を建てられている同じ人生の家のように見えても、イエス様ははっきりと見分け、よく見極めて下さっています。今日の本文に入る直前にイエス様は人の前で、表では偉そうに見せながらも、実は偽善的で、二重的なパリサイ人たちなどの信仰の姿を叱りながら、こう語って下さっています。

「わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行な者がはいるのです。」(マタイの福音書7:21)

主よ、主よと言う人たちが天国にはいるわけではないと断言におっしゃいました。その後、22節のイエス様のお言葉はもっと衝撃的です。「その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』

イエス様の御名によって、病人の人が癒され、イエス様の御名によって預言もします。キリストの御名によって悪霊を追い出せる奇跡の力を行なう姿までも見せました。けれども、ここでまた衝撃的、イエスキリストはこのように人たちに向ってこのように厳しくおっしゃいました。23節を見て見ましょうか。

「しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』」

今日の御言葉によって、人は愚かな人が建てた家も、賢い人が建てた家も、表ではわからなかったことを覚える必要があるでしょう。人はだれでも自分の家を美しく建てようとします。そして、それぞれ自分なりに人生の家を建てて行っています。

しかし、すべての人生の家のうわべではみんな似てるように、いくら見えても、神様の御前では決してそうではないことを忘れてはいけません。神様は我らの本心、本音を、心の中心の全てを見ておられ、知っておられます！

主は全てをご存じであります！今、自分の人生の家を神の御言葉の設計図通り、建てて行っているのかどうかを大事に見ておられます。そうすることにより、どんな嵐があり、洪水が襲っても、倒れず、美しく丈夫な人生の家を建てるのが雄一出来るからです。自分勝手ではなく、かならず設計図通りが大切です。

3. 賢い人と愚かな人が建てた二つの家の違い

それでは、この皮相的(ひそうてき:うわべだけの)共通点に対していったい違うところは何でしたか。もっと本質的なことなので。イエス様は結局今日の本文のたとえ話の話を通してその違いを強調し、教えて下さろうとされたことが分かります。

始め、イエス様はこの二つの家を建てる過程にかかった努力の違いについてまず強調されました。

砂の上に建てられた家は岩の上に建てられた家と比べると、全然楽にそれとも早く建てられたと思います。しかし、岩の上に建てて置いたその家は基礎を整っていくための工事でどれほどの苦労と、時間がかかって努力したのでしょうか。きっと砂の上の家よりは、とても時間がかかってゆっくりと建てられていたはずでしょう。

おそらく、岩の上に建てようとしていたその家の基礎を建てるうちに砂の上に建ててる家の人はずでに家の形をほとんど建てて、完成をすぐ目前にしていたかも知れません。そうしながら、必死に岩の上に家を建てようとして努力している人たちの姿を見て、あざ笑いながら、かえって“お前たちはね、本当に愚かな者じゃないか。非効率的じゃないのかよ！”とさげすんだかも知れません。こんな忙しい時代、スピードの時代にいつまで基礎ばかりに建てようとしてそんな長く、貴重な時間費やすつもりかとまるで自分たちが賢くて、岩の上に家を立とうとする人たちはまさに愚かなアホみたいに扱われたかも知れません。

今日の本文には岩の上に建てられた家にかかったエネルギーについての描写(びょうしゃ)はありません。しかし、今日の同じ御言葉の内容が書かれているルカの福音書を読んで見ると、今日の本文の表現とはちょっと違って書かれていることが分かります。

「その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。」(ルカの福音書6章48節)

ルカの福音書ではただ岩の上に建てたのではなく、何が強調されていますか。

“地面を深く掘り下げ、しっかり岩の上に土台を据えた”と強調されているでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！信仰の真の基礎、揺るがない信仰の土台を丈夫に建てて行く事！聖書の御言葉通り本気で信じ、従って生きる事(毎週何があっても礼拝しようと、自分で頑張っても出来ないのに、なんで祈るか、聖書の御言葉通り生きるより、Googleで検索して生きた方時間節約し、ましであり、聖書通り生きようとするのは、古い考え方、ちょっと宗教にはまった人たちの愚かな生き方だとよく言われそうではありませんか。

世の人々から見ると、むしろ、岩の上に家を建てて行こうする人々が、無駄なことであり、愚かに見えます。

しかし、みなさん、本当にそうでしょうか。結局その差は通常の時、あんまりその違いもないように見えたかも知れませんが、必ず、その違いが明らかにされる時が来ることを聖書にははっきり教えて下さっています。

みなさんは、東京の帝国ホテルについて話したことがあると思いますが、今は東京のインペリアルホテルの全身でありながら、感謝なのは故小牧の近くの明治村に行かれますと、明治時代のそのホテルの実際の中央玄関部が近くいつも展示されるいます。このホテルは 20世紀建築界の巨匠、アメリカの建築家フランク・ロイド・ライト(Frank Lloyd Wright)によって設計され、4年間の大工事の後に完成されたのが東京の帝国ホテルでした。ところが、このホテルを建てた4年間うち、実はこのホテルの基礎工事をするのに、ほぼ2年間かかったそうです。それで、当時は、回りからいろんな非難の対象になっていました。どうして、あんなに多くの時間やお金を投資し基礎工事するだけで費やすのかと、建築家フランクに任せたのは愚かで、大失敗みたい扱いされたそうです。

結局、まる2年基礎工事、残り2年で他のすべてを建てあげてこのホテルは1923年完成されました。完成されてからもしばらく、この帝国ホテルは無駄なお金が多くかかって建てられた体表的なケースの建物に見なされたそうです。ところが、このホテルが建てられてから年に関東大地震が起きました。周辺の多くの建物が倒壊したり、火災に見舞われる中で、小規模な損傷はあったもののほとんど無傷で変わらぬ姿を見せていたのがこの帝国ホテルでした。その後、人々は代わり世間に注目され、ライトという名前も日本建築界には神話のように伝わるようになったのです。時間がかかっても、いくら努力しても、この基礎がどれほど大事であるか、どれほどしっかりしなければならないのか、帝国ホテルは私たちによく証明してくれています。

二つ目の賢い人の家と愚かな人の家の一番の大きな違は試練に守られ、耐えられ、乗り切るかどうかのことでした。

本文25節を読んで見ると、洪水が押し寄せて来ます。そして、突風のような強い風がその家に打ちつけます。

ついに二つの家はめっきり違差が表されます。砂の上に建てられた家はすぐ揺らぎやすく、倒れが激しくなってしまいます。しかし、岩の上に建てられた家は、揺らぐことなく、よく耐えられ、守られ、その時を十分に乗り切っていけることと約束されています。

ここで大雨、洪水、嵐は何を念頭に置いてイエス様がおっしゃったと思いますか。そうです！それは人生の中で、いくらでも起こりうる思わぬ試練であり、激しく襲ってくる苦難のことなのです。

我らの信仰っていうものが、本当に聖書中心とした信仰であるか、自分勝てな信仰の形だけなのか、本物の信仰なのか、形だけの信仰なのか、このような人生の試練にあった時、明らかにされると言われています。

今、我らも共に、思わぬコロナウイルスの困難の中で、我らの人生の家を、大切なものを奪おうと襲って来ている中、我らの信仰はためられているのではありませんか。自分の信仰をしっかり点検し、もう一度、悔い改めることがあったら、主の前で告白し、

赦され、もう一度新たに神様に立ち返り、神の御言葉にしっかり立ち返り、新たに力を尽くし、心を尽くしつつ、神の言葉、我らに与えて下さった人生の家を賢く、美しく建てられる聖書の設計図通り、徹底的に従って生きる時ではありませんか。そのような人生の家をさらに主が守り、揺るがない人生の家として建てさせて下さると信じます。

ここでみなさん、我らが忘れてはいけない大切なポイントがもう一つあります！それは、砂の上の愚かな人生の家に、岩の上に賢い人生の家にも、嵐は、両方にも襲って来るということです。人生の中で、キリストを信じるものであっても、信仰を持っていない人々であっても、この世の人生の生きているうちには、思わぬ試練や苦難に、混乱に巻き込まれ、襲われる時は何度もあるかも知れません。ですから、そのような苦しみの中や、失敗の中にいる人々に対して、むやみに、勝てに信仰が足りないとか、祈りが足りないからだとか、絶対判断しないで下さい。先週メッセージにもあったように、イエス様の弟子たちも、死にそうな嵐で、船がひっくり返され人生の最後のどん底にまで陥られた時を経験しましたが、それを通して、むしろ、しっかり、信仰と御言葉に立っているものは、さらに生きておられる神が共におられ、神の御業と御守り、救いを体験する時として必ず導いて下さいますから。しっかり信仰を持っているのに、人生の中で様々な試練にあうことを珍しく、不思議に思わないで下さい。

みなさんが神様にしっかりつながれているならば、神の御言葉にしっかり根付いているならば、必ず、主が皆さんを守り、耐えさせ、ついに乗り越えらせて下さって益となるようにして下さいの今年一年も体験して行きましょう。

みなさん、仕事の中で宝石鑑別(かんべつ)士という職業があるでしょう。特にダイヤモンドの鑑別士たちは本物のダイヤか、偽物がを分別する時、簡単にやって分かる方法が一つあります。ダイヤを水の中に入れて見ると、その瞬間偽ダイヤは水に入れる前はつやつやと光っていたものが水の中に入るとすぐその光を失うようです。しかし、本物のダイヤは水に入れなくても、水の中に入れても関係なく、ダイヤの光が変わらずありのまま輝いているようです。

試練の中で、逆境の中でこそ、本当の信仰の光は輝くでしょう。自分の生存を脅かす恐ろしい嵐が襲って来ても、揺るがずに、御言葉の信仰の上にしっかり堅固に耐え、守られ、ついに乗り切っていける信仰のその姿でこれからも建てられていきますようにお祈り致します。

今、みなさんの信仰の基礎は本当に丈夫ですか。御言葉の岩に深く掘り下げているのかどうか点検する必要があります。もう激しく揺らいでいる方々はいませんか。もう一度今まで自分の信仰の基礎を点検し、大事にしましょう。

まだ全然遅くありません。大変な状況の中でも、4月から20年度の始まりを迎えながら、さらにみなさんの人生の家が揺るがず、信仰の動揺もせず、堅固であって、さらに美しく賢く人生の家を建てて行く建築家たち、クリスチャンプレイズチャーチの全の神の家族となりますようにイエスキリストの御名によって祝福します！

「わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人だ。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの家族のみなさん！そうです。砂の上に建てた人の家と岩の上に建てた家の根本的な差といえば、それは基礎、土台の差でありました。だから、この基礎ってどれほど人生の中で大切ですか。時間がかかっても、変わらない神の人生設計図である聖書の御言葉の基礎と土台を深く、しっかり根付かせ主に祝福される賢い人生の建築家たちとなりますようにお祈り申し上げます！アーメン！

【今日の祈り】

“主よ。今年もどんなときにもいつも御言葉と信仰の行いの岩の上にわたしをしっかり建たせて下さい！今年も我が人生が、我が家庭が、われらの教会が、様々な逆境や試練の中にあっても、揺るがず守られ、忍びながら、ついに乗り越えて進むことができますように私を助けて下さい。どんな試練があっても、イエスキリストを信じる信仰と力強く、神の知恵のある命の御言葉のゆえに、まっすぐに進み行き、揺るがず堂堂と生きる20年度の人生の家となりますように、助けて下さい。常に神様の前で、謙遜になり、自分に頼る愚かな人生ではなく、我らを変え、矯正させ、癒し、回復させ、神の救いと助けをもたらす神の御言葉通りにきちんと歩めますように！どんな年よりも、思わぬ大変な今年一年、主よ。しかし、今の混乱な時代を、神の御言葉をしっかり握って我らの信仰の土台が一層強くなれるように私を導いて下さい。日々主と共に歩み、人生の最後まで美しい人生の家を建てて生ける賢い人生の信仰の建築家となれるように豊かに祝福し、強めて下さい。愛する主イエスキリストの御名によってお祈り致します。アーメン！”

【関連の御言葉】

*ヨハネの手紙第一2章3-6節

「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。4神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」

*ヨハネの福音書14章21-23節

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現します。イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。」